

第 29 回 太田ステージ研究会

プログラム

日 時 : 2019 年 1 月 26 日(土) 10:00~17:00

場 所 : 北とぴあ 7 階 第 2 研修室 (東京都北区王子 1-11-1)

参加費 : 会 員 3,000 円

非会員 4,000 円

プログラム

9:30～ 受付

10:00～ 開会の挨拶

10:15～12:10 シンポジウム

自閉スペクトラム症(ASD)児・者へのよりよい支援を求めて ～TEACCHと認知発達治療の比較から～

TEACCHはアメリカのノースカロライナ州で1960年代に開発された自閉スペクトラム症およびその近縁の障害のある方への支援プログラムであり、言うまでもなく現在は世界的に知られているものである。

TEACCHが包括的な治療・療育システムとして日本で盛んに紹介され始めたのは1980～90年代、ちょうど認知発達治療を2冊の本にまとめあげようとしていた時期に重なる。1989年1月にショプラー先生とメジボフ先生をお招きしTEACCHと認知発達治療に関する国際シンポジウムが開催された。また、同年7月には太田昌孝氏が訪米し、ノースカロライナ大学TEACCH部門やカリフォルニア大学ロサンゼルス校の研究活動と臨床の実際を見聞し、アメリカにおける自閉症の治療と評価、研究に学ぶ機会を得ている。

TEACCHも認知発達治療も個別化された治療・介入のための評価及び治療教育の方法であり、当事者の視点に寄り添う姿勢や家族と協力することの強調など、共通する点が多く見られる。一方で、自閉症の発達の見方や自閉症の本態に迫る可能性を追求するという点で、考え方の違いがある。この共通点と差異点を考えることは、自閉症スペクトラム症(ASD)児・者へのよりよい支援方法の発展を考えるうえできわめて有益であると考えられる。

医療はもちろん、教育や福祉においても理論やエビデンスに基づくということが重視される昨今の流れから、発達障害児・者への働きかけを行う現場では、「TEACCHと太田ステージのどちらを取り入れるべきか？」とか、「両者をうまく統合した形だと思うがどうしたらよいか？」などの議論になることもあると聞く。いずれも具体的な技法や課題などのツールがあり取り組みやすい印象があるが、ある治療・療育プログラムを目の前の一人ひとりに合わせた適切な対応へとつなげていくには、その本質を深く理解し一人ひとりに具体化していく力が求められる。

このような状況をふまえて、今回は「自閉スペクトラム症(ASD)児・者へのよりよい支援を求めて～TEACCHと認知発達治療の比較から～」というシンポジウムを企画した。両者の根底にある基本的な理論や開発当初からの発展などについて改めて学び、ASD児・者へのよりよい働きかけについて、職種を越えて皆で考える機会としたい。

シンポジスト：黒田美保(名古屋学芸大学ヒューマンケア学部)

亀井真由美(東京都立東大和療育センター)

指定討論者：染谷利一(特定非営利活動法人銀杏の会 御茶ノ水発達センター)

司会：金生由紀子(東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野)

12:10～13:20

昼食タイム

13:20～14:35

一般演題 : 発表 15分 討論 10分

司会: 立松英子

- 1) StageⅢ-1(後期)の生徒に対する TEACCH プログラムを参考にしたコミュニケーション指導
鈴木潜(埼玉県立所沢特別支援学校)
- 2) 重症心身障害児(者)の認知発達段階別コミュニケーションの実態とその支援
矢内裕子 亀井真由美 荻原千恵(東京都立東大和療育センター)
- 3) 中学校における ASD 児への「認知発達治療」の意義について
ー短期間で StageⅢ-1 からⅢ-2 に向上した生徒の事例を通してー
石川茂行(厚木市立東名中学校)

14:35～15:05

総会

15:05～15:20

休憩

15:20～16:35

一般演題 : 発表 15分 討論 10分

司会: 齋藤厚子

- 4) 中川の郷療育センターにおけるペアレントトレーニングの実践報告
小野知子(中川の郷療育センター)
- 5) 太田ステージ評価と日中活動作業内容との違いから見えてきた事
柳田修次(社会福祉法人かながわ共同会 愛名やまゆり園)
- 6) 「できる」が見つかる宝の地図
～太田ステージを活用し障害者支援施設で個別プログラムを構築する～
岩葉滋希(社会福祉法人平館福祉会 障害者支援施設かもめ苑)

16:35～

閉会の挨拶

17:10～

懇親会 「豪香飯店」

JR 王子駅北口徒歩 1分 電話 03-5963-5785

会費 4,000 円